



◎活動状況

- ・「食彩ふくしま地産地消推進店」認定証交付式を開催
- ・「野生きのこ学習会」開催
- ・森林環境ゼミナール開催
- ・「食の楽校」稲刈り
- ・「食の楽校」鮫川堰教室
- ・第33回福島県林業祭開催
- ・夏井小学校 田んぼの学校「脱穀、精米」
- ・「食彩ふくしま有機農産物等産地交流会」開催

◎トピックス

- ・第47回福島県優良木材展示会開催
- ・森林セラピーセミナー開催

活動状況

○「食彩ふくしま地産地消推進店」認定証交付式を開催しました

福島県では、県が進める地産地消の趣旨に賛同し、地元産をはじめとした、県産の農林水産物を積極的に利用する飲食店を募集し、「食彩ふくしま地産地消推進店」として認定しました。いわき地区では計16店が認定され、10月8日(水)に認定証交付式を開催しました。

当日は、都合により欠席された3店を除く13店の代表者にお集まりいただき、当事務所の五十嵐企画部長が認定証を交付しました。その後、各店の代表者が集まった折角の機会ということもあり、各店での地産地消の取り組み事例について発表していただくとともに、情報交換を行いました。

今後とも、旬の県産農林水産物を活用した地産地消メニューを消費者の方々に提供していただくことにより、県産農林水産物のより一層の消費拡大につながることを期待したいと思います。



○「野生きのこ学習会」を開催しました

10月16日(木)、湯ノ岳山荘及びその周辺林において野生きのこ学習会を開催しました。この学習会は、野生きのこに関する基礎知識の修得を目的に、いわき農林事務所森林林業部の職員研修の一環として農林事務所が企画したもので、事務所職員のほかNPO法人いわきの森に親しむ会のメンバーも加わり、計17名が参加しました。

当日は、まずはじめに、講師である(財)福島県きのこセンター青野専務理事により野生きのこの基礎知識について講義が行われ、きのこの生態や代表的な毒きのこ、きのこにまつわる迷信の真偽等について学んだ後、各人それぞれ分かれて山荘周辺の林内で食用きのこ・毒きのこの別なく採取を行いました。午後からは採取したきのこを手分けして分類した後、図鑑片手に鑑定作業を行い、最後に、講師から鑑定結果の正誤、各きのこの特徴や見分け方等について説明がなされ、全ての日程を終了しました。

日本国内で発生する野生きのこの種類は3000種とも5000種とも言われ、短時間でその全てについて学ぶことは到底不可能です。しかし、多くの種類のきのこが存する一方で、きのこによる中毒は、カキシメジ、ツキヨタケ、クサウラベニタケのいわゆる「毒きのこ御三家」によるものが8割近くを占めており、毎年同様な中毒例の報告が後を絶たないのが現状です。つまり、きのこによる中毒を防ぐための近道は、まず「絶対に食べてはいけないきのこを覚えること」、そして「怪しいきのこは決して食べないこと」となります。皆さんも必ずこの原則を守って、野生きのこの調理を堪能してください。



○森林環境ゼミナールが開催されました

県主催による森林環境ゼミナールは、10月18日(土)いわき市常磐湯本町にある21世紀の森公園において、浜通り各地から集まった小学生など約130人が参加し開催されました。

午前中は、21世紀の森公園の自然冒険ゾーンの森林内の歩道を、いわきの森に親しむ会員と歩きながら、自然観察を通し森林の働きについて学びました。森林内の竹を伐採して、森林環境を維持向上するための作業について体験しました。

午後には、いわきグリーンフィールドの室内を会場として、木工体験を行いました。木工クラフトは木の枝や竹を材料に、金槌やカッターを手にし、慣れない作業に悪戦苦闘しながら、ペンダントや動物などの置物を完成させていました。短時間ではありましたが、参加者からは、森林への親しみが深まり時期を選んでまた来てみようか、と言った声を多く聞くことができました。

森林環境税を導入して3年目を迎え、今回の行事が「県民一人一人が参画する新たな森林づくり」に取り組むきっかけとなって、浜通り全体に美しい森林を残していく意識が高まることを期待しています。



○「食の楽校」で稲刈りを行いました

10月21日(火)、いわき市立渡辺小学校の5年生24名とともに、もち米「まんげつ」の稲刈りを行いました。

はじめに、当農林事務所の農業普及指導員が、田植えから稲刈りまでの主な作業について説明を行いました。

その後、地域の方に刈り取り方を教わり、早速、稲刈りに入りました。頭を垂れ、黄金色に色づいた稲穂に喜びを感じながら、みんなで一所懸命に取り組みました。また、刈り取った稲を6株ずつ1束にまとめ、地域の方が立ててくれたはせ木にかけ作業も行いました。



○「食の楽校」鮫川堰教室を行いました

10月23日(木)いわき市立渡辺小学校の4年生16名を対象に、鮫川堰関連の施設見学と学習を目的とした鮫川堰教室を行いました。今回の学習では、水土里ネット鮫川堰(鮫川堰土地改良区)の職員2名を講師として、現地の説明等を行っていただきました。

上流から下流にかけて、遠野町にある鮫川取水口や沈砂池、水神様を祭る水神社、架樋の第6号水路橋や、渡辺町の上釜戸頭首工など各施設の説明を受けながら見学しました。また、小学校のすぐ北側にあり、鮫川堰から上水を取水している田部ポンプ場は、市水道局泉浄水場職員の方の案内で見学しました。

児童たちは、身近な鮫川堰の用水が地元渡辺町や植田町、常磐地区などの農業を支えているだけでなく、上水道や工業用水としても利用されていることを学び、その重要性について理解を深めることができました。



○第33回福島県林業祭が開催されました



10月25日(土)～26日(日)の2日間、郡山市安積町の林業研究センターを会場として、恒例となった林業祭が開催されました。林業祭は、「森林を理解し、森の恵みを生かす」のコンセプトに沿って、森林の働きを学ぶコーナー、木の葉を使ったパウチング、スタンプラリー、木材コーナー、林業機械コーナー、林産物販売など、子供から大人まで楽しく過ごせる企画があり、県内外から約4,500人の来場者でにぎわいました。

会場へは毎年訪れる方が多く、緑化木、林産物、竹細工や炭製品などを購入し、両手一杯に持ち帰る姿を多く見受けました。

今回、初めて企画された「きこり番付(プロクラス編)」では、県内各地からチェーンソーの腕自慢が、玉伐りや枝払いの技術を競い合い、会場内にはリズムカルなエンジン音が響いていました。当管内からは2チームが参加し、団体の部では磐林協Bチームが優勝、同Aチームは2位になりました。個人の部でも、いわきから参加した2チームのメンバーが上位を独占しました。

また、各地区から珍しい林産物を持ち寄り「森のオークション」が行われ、いわきから出品した「浮き球」と「流木」は、参加者に好評で高価で落札されました。

併催行事として「第33回福島県きのこまつり」が開催され、きのこ品評会には、県内各地で手塩にかけて栽培された、生しいたけ・なめこ・乾しいたけなどが多数出品され、いわき管内からは山田町の加茂善伸さんが出品した菌床ナメコが日本特用林産振興会長賞を受賞しました。

また、林業コンクール等表彰式が行われ、田人町の上遠野貞夫さんが、熱心な手入れと、地域での技術的なリーダーを果たしている成果が評価を受け、造林部門で知事賞を受賞しました。



○夏井小学校 田んぼの学校「脱穀、精米」

10月28日(水)、夏井小学校で「田んぼの学校」第6回活動が開催され、5年生児童19名が、前回活動で刈り取りした稲を白米までにする「脱穀、精米」作業を行いました。

今回の活動では、「千歯扱き(せんばこき)」「足踏み脱穀機」「唐箕(とうみ)」などの昔の脱穀機と、現在の脱穀機である「ハーベスタ」を使った作業から、昔と今の違いなどを学ぶことがもう一つの目的です。

千歯扱きや唐箕などの昔の農機具を児童たちが目にするのはこの日が初めて。使い方や作業のポイントなどを地元応援団の手ほどきを受けながら作業を行いました。まだまだ力の弱い児童たちには大変な作業となりました。

ハーベスタでの脱穀は、稲を機械に入れるだけの単純作業でしたが、昔にくらべほとんど労力のかからない動力機械の便利さを、児童たちも肌で感じてくれたことと思います。

この日の最後に行われた「精米」体験は、戦時中、配給米などで行われた「一升瓶に入れた玄米を棒でつく」原始的な精米方法。児童たちは2人1組で懸命に頑張りましたが、米ぬかはほとんどとれずに時間切れ。教室へ持ち帰り時間をかけて行うことになりました。

この活動で脱穀されたお米は約3俵。11月下旬に催される「田んぼの収穫祭」で餅つきをし、全校生徒で食べる予定です。4月の種まきから今回の活動まで、お米作りに必要な全ての作業を自分たちの手で行った結果での収穫祭。

収穫の喜びもより一層大きいものになると思います。



○「食彩ふくしま有機農産物等産地交流会」を開催しました

10月29日(水)、福島県主催で浜通り方部の「食彩ふくしま有機農産物等産地交流会」が開催され、有機農産物等の流通・販売を行っている企業3社の担当者を招待して、いわき地方の有機農産物等の産地を見学し、生産者と情報交換を行いました。

いわき市錦町の助川正克氏のトマトの特別栽培実証ほでは、JAいわき市ハウス部会菊田支部の会員6名が特別栽培に取り組んでいるとの話を聞き、各企業担当者は高い関心を示していました。

いわき市山田町の坂本和雄氏のネギの有機栽培実証ほでは、ネギはいろいろな食材に利用ができる、販売方法を工夫すれば売れる、等の意見が出ていました。

その後、有機農産物生産者等と各企業担当者の懇談を行いました。今後の有機農産物等の販売拡大につながるものと期待されます。



トピックス

○第47回福島県優良木材展示会が開催されました

10月23日(木)、福島県木材協同組合連合会、株式会社平木材市場の共催により第47回福島県優良木材展示会が、木材関係者約120名出席のもと、いわき市内郷綴町にある同市場で行われました。

この展示会は、福島県産材の優秀性を広く紹介すると共に、木材の需要拡大と木材業界の一層の結束と協調を図ることを目的として、毎年秋の需要期に行われ、福島県産材のPR並びに利用促進に役立てられております。

展示会で行われた記念市には、スギ、ヒノキ、ケヤキ等の優良な素材や製品が、通常の市の約3倍の量である素材4,000m³、製品2,000m³が入荷されました。活気に満ちた競り売りにより完売しました。



○森林セラピーセミナーが開催されました

10月31日(金)、磐城流域林業活性化センターの主催により「森林セラピーセミナー」がいわき市常磐藤原町の湯ノ岳山荘で約60名の聴講者が参加し、盛大に開催されました。

当セミナーは、日本林業技士会の「上下流連携いきいき流域プロジェクト事業」を活用しており、森林の保全や森林環境教育活動を推進することにより、森林・林業への支援意識の一層の醸成を目的として開催されたものです。

講師は、千葉大学環境健康都市園芸フィールド科学教育センター教授で医学博士の宮崎良文氏で、森林・園芸医学分野における第一人者です。「森林セラピーの快適性増進効果」と題して、全国24箇所の森林での実験データを交え、森林セラピーの生理的リラックス効果について講演頂きました。

「森林セラピー」とは「科学的エビデンス(根拠)に裏付けられた森林浴効果」のことで、林野庁などが推進している「森林セラピー基地構想」が、地域の活性化という身近な問題から、森林の再生、医療費の軽減という現代の日本が抱えている問題解決につながる可能性もあるとの興味深い話があり、実り多いセミナーとなりました。



